

ひょうごの 遺跡

106号



(公財)兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1 兵庫県立考古博物館内 TEL.079-437-5561 FAX.079-437-5591 URL:<http://www.hyogo-ctc.or.jp/>



発掘調査の成果

令和3年度

- 古代律令期の官衙から
寄進地系荘園への変遷
- 登り岡遺跡 (姫路市継)
- 多量の礫を用いた埋葬施設「礫塚」
- 中村群集墳 (神戸市西区平野町)
- 弥生の住まい・平安の住まい
- 上戸田遺跡 (西脇市上戸田)

特集

- 遺跡発掘体験、掘ってみよう / むかしの遺跡
- ドローン撮影の支援
- 舟木遺跡 (淡路市舟木)

ひょうごの掘り出しもの ~第4回~

古墳時代の物語を伝える装飾付須恵器

登り岡遺跡での発掘体験の様子

かんが 古代律令期の官衙から寄進地系荘園への変遷

のほりた
登り田遺跡 (姫路市継)

令和2年度に引き続き八家川^{やかがわ}の洪水調整池を建設するため、登り田遺跡E・F・G区の発掘調査を実施しました。令和2年度の調査では、A区で官衙の建物群を想定させるような整然と並んだ掘立柱建物群、B区で土馬が出土した土坑墓、そしてC・D区では八家川の護岸と考えられる堤防の下部構造である粗朶敷き遺構^{そだ}を検出しました。この他、遺物としては古大内式軒丸瓦^{ふろうちしきのきまるがわらりよくゆう}、緑釉陶器、墨書土器^{おおよけ}など公の施設である官衙などを想定させるような遺物が出土していました。

以上から『播磨国風土記』にある「継^{つぎ}潮^{みなと}」が想定でき、それを念頭に令和3年度の発掘調査を行いました。

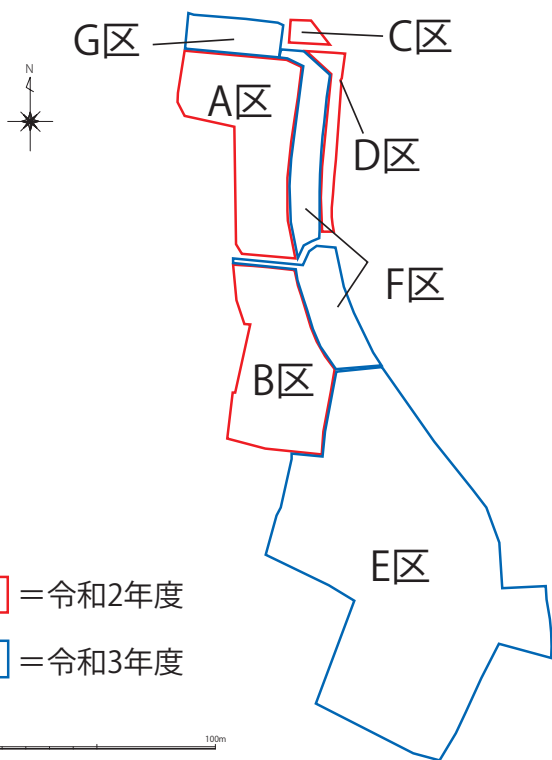
G区掘立柱建物

令和2年度に調査をしたA区の北側に隣接し、掘立柱建物群が検出されることを想定し調査を行いました。調査の結果、4

棟（うち2棟はA区の続き）を検出しました。令和3年度に検出した掘立柱建物跡のうち1棟は2×2間の総柱建物、もう1棟は4×3間以上の側柱建物で調査区北側にも続いているようです。ただし、G区は令和2年度のA区と比べ遺構密度も低くなりました。継の集落の中心は明治時代の地図などからA区、B区、E区の西側と考えられます。そのため、G区も集落の端になっていく場所と考えられます。G区の北側を走っている姫路バイパス建設時の調査でも遺構は確認できていない点からもこのことは裏付けられます。

F区粗朶敷き遺構の調査

C区、D区でも検出した粗朶敷き遺構を検出しました。大半で粗朶の東側、八家川



調査区配置図



G区の掘立柱建物跡 (南から)



F区の粗朶敷き遺構検出状況 (北西から)

に近い側にのみ杭が打ち込んでありました。上部の堤防状の盛土は検出できませんでした。粗朶敷き遺構は総延長約 80m に及びC区の北側にさらに続いているようでした。また、粗朶の東側からは人形木製品も出土しました。病氣やけがれを移し、川に流した祭祀道具と考えられます。

E 区の調査

井戸枠に曲物を利用した井戸を 1 基検出しました。径 0.5m の曲物を 5 段積み重ねており、掘形は 2.8m と井戸枠に対して掘形が大きい特徴がありました。遺物は掘形から樟葉型瓦器碗、須恵器、土師皿、呪符木簡などが出土しています。遺物から平安時代後期に作られた井戸と考えられます。

また、調査区南側では溝に大量の遺物が廃棄されていました。廃棄された遺物の中には通常の古代の集落では出土しない、瓦や緑釉陶器も含まれており、この遺跡が官衙である可能性がさらに高くなりました。

また、E 区の東側では八家川に直交する 2 列の杭列を検出しました。この杭の中には直径 30 cm 以上、深さ 1 m 以上ある柱を転用した杭がありました。

まとめ

2 年間で約 2 万 m² の調査の結果、古代の土馬、人形木製品、古大内式軒丸瓦などの瓦、墨書土器、緑釉陶器などの出土遺物、整然と並ぶ掘立柱建物群、上部が堤防であったと考えられる約 80m に及ぶ粗朶敷き遺構、瓦や緑釉陶器が出土した土器捨て場、直径 30 cm 以上の柱材を転用した護岸施設などは、本遺跡が律令期において『播磨国風土記』にある「継潮」であることを想定させるのに十分であると言えます。

また、平安時代後期の『石清水文書』から当地が石清水八幡宮の荘園であったことがわかっています。今回出土した樟葉型の

瓦器碗は石清水八幡宮と関係が深い遺跡から出土することが多く、律令体制の公の施設である官衙から、有力寺院の庇護を受け、国の税金を免除された寄進地系荘園への変遷も窺えます。（調査第 1 課 青山 航）



F 区出土の人形木製品（西から）



E 区 柱を転用した杭の検出作業



E 区 平安時代後期の井戸（南から）
井戸枠、呪符木簡、樟葉型瓦器碗出土状況

多量の礫を用いた埋葬施設「礫槨」

なかむらくんしゅうふん

中村群集墳（神戸市西区平野町）

れきかく



動画はこちら

中村群集墳は印南野台地の東端、明石平野を見下ろす丘陵上に立地します。一般国道2号（第二神明道路）の建設に先立ち、発掘調査を行いました。

ここでは、今回の調査の中でも特に貴重な発見となった埋葬施設SX1を紹介します。SX1は3.8 m×2.2 mの墓坑内に木棺を置き、木棺の側方と上方を「土」ではなく多量の礫で埋めた「礫槨」と呼ばれる珍しい埋葬施設です。中に置かれた木棺は、



礫槨 SX1 の調査状況（東から）

わりたけがた割竹形木棺と呼ばれる、丸太をくり抜いて作られた棺とみられます。木棺が置かれた場所は、棺材が腐ってしまい、そこに礫が落ち込んだため、凹んでいました。中からは、棺の中に副葬された鉄製のヤリガンナ（木材の表面を加工するための道具）が出土しました。

墳丘は削平されていましたが、周溝が一部残っており、墳形は直径約12 mの円形であったとみられます。

当遺構は、兵庫県内では類例のないとても珍しい埋葬施設です。墳丘の形状や他地域の似た構造をもつ埋葬施設の年代から、弥生時代終末期～古墳時代初頭のもものと推定しています。明石平野を一望できる見晴らしのよい場所につくられており、付近を治めた有力者の墓である可能性があります。

（調査第2課 稲本悠一）



礫槨 SX1 をもつ円墳と明石川流域の平野（西上空から）

弥生の住まい・平安の住まい

かみとだ
上戸田遺跡 (西脇市上戸田)

一般国道 175 号西脇北バイパスの建設に先立ち、発掘調査を行いました。

調査の結果、弥生時代後期～終末期の竪穴建物跡 7 棟や溝、土坑、古墳時代初頭の円形周溝、平安時代後期頃の掘立柱建物跡 5 棟、土坑墓、蔵骨器埋納土坑、溝、土坑、ピットなどが見つかりました。

弥生時代の竪穴建物跡は円形が 4 棟、方形が 1 棟、平面形不明が 2 棟見つかりました。円形竪穴建物跡 4 棟は、出土土器から弥生時代後期～終末期頃まで利用されていたと考えられます。また、方形竪穴建物跡 1 棟は出土土器から弥生時代終末期頃まで利用されていたと考えられます。円形 4 棟と方形 1 棟は直線距離で約 100 m 離れており、集落が移動したと推定されます。また、竪穴建物跡に近い東西方向に流れる溝からは、弥生時代後期～終末期頃の土器が

多量に廃棄された状況で出土しました。

平安時代後期頃の掘立柱建物跡は、4 棟が並んで見つかりました。建物跡の柱穴や周辺のピットからは、完形に近い須恵器のわん椀や、土師器の皿、石などがみつかり、集落の廃絶時に柱材を抜き取り、地鎮の意味を込めて土器を埋めたと考えられます。また、蔵骨器埋納土坑 SX17 や、土坑墓 SX3 が見つかりました。SX17 は土器の様相から掘立柱建物跡と同時期のものであり、屋敷墓と言えます。一方 SX3 は掘立柱建物跡 SB102 と切り合い関係にあり、建物の廃絶後に造られたと推定されます。

上戸田遺跡では、弥生時代～古墳時代と平安時代の集落跡がみつかり、この地で継続的に生活が営まれていたことが判明しました。

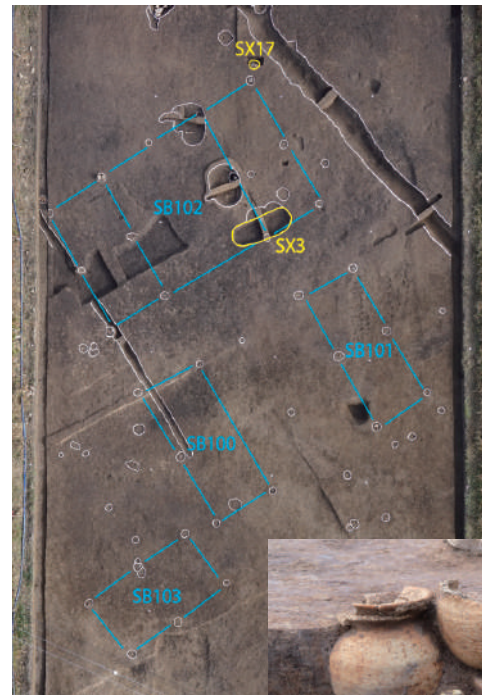
(調査第 2 課 園原悠斗)



弥生時代後期～終末期の円形竪穴建物跡 (西から)



多量に土器が出土した弥生時代後期～終末期の溝 (北東から)



規則的に並ぶ掘立柱建物跡 (写真上、上が北東) と蔵骨器埋納土坑 SX17 (北東から)

遺跡発掘体験 掘ってみよう むかしの遺跡

姫路市継所在の登り田遺跡において、兵庫県立考古博物館との共催により、令和3年10月30日(土)に一般の方を対象とした遺跡発掘体験を行いました。

新型コロナウイルス感染症対策として、例年よりも少ない募集人数となりましたが、小学生からシニア世代まで、家族で、友人と、お一人でなど、さまざまな参加者となりました。

連日現場の様子を道路越しに覗きにきて下さる方もあるなど、発掘調査に対する地元への関心も高く、地元自治会へ案内チラシの回覧を依頼したこともあり、参加者の約半数が地元地区の方でした。地元地区の方以外にも姫路市、たつの市などの近隣自治体からの参加が多数の中で、近隣府県からの参加者もあり、考古学ファンに貴重な機会を提供することができました。

発掘体験の場所は、登り田遺跡で最も多く土器が出土している遺構(奈良時代~平安時代初頭の遺物が大量に出土している溝)を選びました。一時間程度の発掘体験ながら、大量の土器の取り上げができ、参加者の満足度も高かったと思います。

体験発掘の終了後には土器洗い体験を行

いました。遺物は残りの良いものも多く、発掘した遺物のすべてを洗いきることはできませんでしたが、自分で発掘した遺物を洗えたため、こちらも時間を惜しんで土器洗い体験を行ってくださりました。

発掘体験は例年10月終わりごろの土日に行っています。参加者の体験後のアンケートでも満足度が非常に高い企画で、体験を行う地域(遺跡)は毎年変わりますので、近隣で行われる際にはぜひご参加ください。

参加の案内は例年、体験日の約1ヶ月程度前から兵庫県まちづくり技術センター及び兵庫県立考古博物館のホームページに掲載されます。興味のある方は是非こまめにチェックをお願いします。

(調査第1課 青山 航)



発掘体験の様子

(公財)兵庫県まちづくり技術センター・兵庫県立考古博物館共催事業

遺跡発掘体験

掘ってみよう むかしの遺跡

参加無料

令和3年
10月30日(土) 9:00~12:00(雨天中止)

会場 登り田(のぼりた)遺跡発掘調査現場
姫路市継

- ・山陽電鉄八家駅下車北に約 2.0km (徒歩約 25 分)
- ・JR 姫路駅北口より神姫バス 23・24 系統 乗車。見野バス停下車(所要約 30 分) 下車後、南に約 800m(徒歩約 10 分)

募集人数 20名(小学生以上)
(小学生は保護者同伴)

申し込み方法

- 10/12~10/20の間に下記まで電話でお申し込みください。
- 受付時間は月~金曜日の9:00~17:00です。
- 定員に達し次第、受付を終了します。
- グループでのお申し込みは1グループ4名までとさせていただきます。

申し込み・お問い合わせ
公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部
TEL 079-437-5561

発掘体験案内チラシ

ドローン撮影の支援 ふなき 舟木遺跡 (淡路市舟木)

ドローン撮影支援をして ～支援の流れ～

淡路市教育委員会から、ドローン撮影の依頼を受け、以下の工程で撮影をしました。

①担当者との打ち合わせと撮影場所の下見

担当者は遺跡の遠景写真や動画、そしてオルソ写真を希望していたので、それに見合う撮影場所を探しました。

②地域住民との調整

撮影場所や範囲を決めた後、地域住民との調整は市教育委員会にお願いしました。

③ドローン撮影

撮影時、操縦者の傍で担当者がカメラの画角等の指示を出していました。撮影後は、パソコンで写真や動画を確認しました。

以上の工程を、2日間かけて行いました。後日、編集したオルソ写真を提供しました。

(整理保存課 野田 優人)



調査担当者との打ち合わせの様子



撮影した写真の確認

ドローン撮影支援を受けて ～上空からみえてきた弥生時代の集落～

舟木遺跡は淡路島の北部に位置し、海岸から2 km離れた丘陵上に立地する弥生時代後期の遺跡で、範囲は約40haに及びます。これまでの発掘調査から、集落構造や鉄器生産、漁民の活動を背景とした他地域との交易の姿などがみえてきました。

舟木遺跡の調査を進めていく中で、地理的な特徴を上空から捉える必要があると考え、ドローン撮影の支援を依頼しました。撮影位置の選定など、ドローンの特性を活かした撮影には事前の準備が必要であり、オペレーターの技術や知識には一定の経験を要することが分かりました。そして今回、撮影された画像から遺跡内の地形や検出遺構の位置関係が把握でき、集落構造を理解する上で有効であると確信しました。

現在、様々な場で活用されるドローンは、今後、埋蔵文化財行政における遺跡の記録や画像を利用した、遺跡の理解を進めるための手法としても、活用の幅を広げることは確実です。

(淡路市教育委員会 新田妃三光)



舟木遺跡遠景 (遺跡南東上空から播磨灘を望む)

ひょうごの 掘り出しもの

～第4回～

古墳時代の物語を伝える 装飾付須恵器

(小野市 勝手野古墳群)
かつての

小野市^{きびた}黍田町にある勝手野古墳群では、1995年に8基の古墳が調査されました。その中の6号墳でみつかったのが、写真の装飾付須恵器です。まるで双子のようによく似た須恵器が、横穴式石室の前に、門柱のように置かれていました。

この須恵器は、高い台の上に壺が置かれた形をあらわしています。壺のまわりには、馬に乗ってイノシシとシカを追う男、向かい合う男女、相撲をとる男たちと行司、何かに向かって右手を高く上げる男という、合計4つの場面をあらわした小像が飾られています。残念なことに、最後の男が何に向かって手を上げているのかは、向き合う小像2つが失われているのでわかりません。けれども小像を見ていると、この古墳に葬られた人の物語を見ているような気がします。

二つの須恵器をくわしくみると、全体の作りや小像のすがたが少し違って、別の工人が作ったことがわかります。これらがどこで作られたのかは、まだわかっていません。

この装飾付須恵器が作られたのは、7世紀の後半、まもなく奈良の都が造られる時代です。6号墳にねむっていた人は、どんな人物だったのでしょうか。

(調査第1課 久保弘幸)



出土した装飾付須恵器

本誌に掲載の遺跡

- ① 登り田遺跡
姫路市継
- ② 中村群集墳
神戸市西区平野町
- ③ 上戸田遺跡
西脇市上戸田

秋季特別展
丹波焼誕生
— はじまりの謎を探る —
2022.10.1 sat.
— 11.27 sun. —
開催・協賛：考古学のシン・オーランド
兵庫県立考古博物館
Hyogo Prefectural Museum of Archaeology

編集後記

本号では、令和3年度下半期に行われた発掘調査や遺跡発掘体験、ドローンを活用した調査などを紹介しました。

令和4年度も多くの魅力的な発掘調査が予定されています。次号以降で最新情報をお知らせします。
(調査第1課 三好元樹)

『ひょうごの遺跡』バックナンバーはこちら！

https://www.hyogo-koukohaku.jp/modules/book/index.php?action=PageList&category_id=3

<https://www.hyogo-ctc.or.jp/iseki/>

1～82号

考古博物館HP



83号～

CTC HP



公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
Hyogo Construction Technology Center for Regional Development